

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

卒業生の植樹け楓だつた

院長 冷牟田 浩司

4月1日、新入職者がやってまいりました。4月8日には附属看護学校新入学生を迎えます。都城医療センター敷地内が一気に明るくなるでしょう。

みやこんじょの昨年の新年度4月号で紹介しましたが、昨年3月の看護学校卒業生が記念にソメイヨシノを植樹してくれました。今年の春、立派に開花し、新入職員と新入学生を歓迎し、患者の皆さんを精いっぱい癒してくれています。

そのソメイヨシノの隣に今年の卒業生が「楓」の木を植樹して巣立っていました。これで、春は桜花、初夏は楓の新緑の葉、秋は紅葉を広げ、敷地を散策する患者さん的心を和ませ、「自宅に帰るぞ!」と勇気付ける都城医療センター名物になってほしいと思っています。

さて、改めまして今年度も相変わらず、診療、研修、教育、研究活動にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げる次第でございます。

医療界では2025年「病院から地域へ」と地域包括ケアシステム構築が間近になりました。我々、医療人にとってかつて経験のない大変革です。都城医療センターが属する医療圏でも少子高齢化に伴う医療・介護・在宅にむけて様々な多職種協働で対応の備えが求められ、そのため精緻で積極的な回復期リハ医療の需要が確実に増えてきました。

そんな中、自施設に求められる役割分担は何か、真摯に検討をかさね、正しかり取りに勉めています。今年度の都城医療センターの取り組みを少し紹介させていただきます。

1. まず私が担うべき急性期医療分野は、①県西・県南地域の唯一の地域がん診療連携拠点病院としての役割であり、②県西地区、小林・えびの地区、大隅地区的母体搬送から新生児集中治療までの高度周産期二次施設であることは承知しており、引き続き、しっかり責任を果たしてまいります。都城市からはじまった産科一次医療施設、二次医療施設、大学病院間での胎児心拍数陣痛図（CTG）のネットワークシステムはほぼ全県完成しました。その先駆けをなした都城市では、昨年度、都城市が主催となり、一次産科施設、二次周産期センターの都城医療センター、三次センターの宮崎大学病院が参加して「安心して出産できるまち・都城」をテーマとしたシンポジウムが開催され、大きな反響であったと聴き及びます。当院はその中で、高度周産期センターとして引き続き、中心的な役割を責任もって務めてゆくことを宣言しました。

2. 昨年3月、一部の病棟を地域包括ケア病棟として開設して1年がたちます。これまでの急性期医療の経験・人財を生かし、急性期治療を越えたらいち早く高濃度で質の高い回復期リハ治療（postacute 高機能な回復期治療）で病状安定化を進め、一日も早い在宅復帰をより円滑に支援するにはどうしたらいいか、試行錯誤を繰り返してきた1年間でした。

今年度はそのためにリハビリテーション機能を一層充実させ

ます。リハ部門の増員、がんリハビリテーションの充実、また循環器診療部門も強化されますので、心臓リハビリテーションにも取り組んでまいります。この回復期医療を有効に運営することによって自施設および他施設の急性期医療から回復期医療への移動を促進し、急性期医療患者の需要にも一層迅速に対応できるようにしたいと考えています。運用が軌道に乗りましたら、院外からのsubacute（回復期医療必要患者）もお引き受けできるようになって、地域に貢献できるように準備を進めてまいります。

3. 4月には診療部門は内科部門が強化されます。循環器専門医が鹿児島大学から赴任されます。高齢者社会での循環器疾患、特に心不全患者のパンデミックにも備えていきたいと考えています。その視点から心臓リハビリテーションは必須と考え、運用開始の準備を進めます。血液内科専門医も増員されます。高齢者の血液疾患への対応が強化されます。

もちろん地域医療支援病院、救急告示病院、開放型病院としてもかかりつけ医の皆様との協働診療も從来どおり行ってまいります。地域の医療従事者の生涯研修もさらに充実させてまいります。がん診療連携拠点病院研修会、感染管理研修会、医療安全研修会、病診連携のタペ、医科・歯科病診連携のタペ、緩和ケア研修、臨床倫理研修など様々な研修会です。お気軽にご参加ください。小学生・中学生のための医療体験ツアー（メディカルキッズ）も引き続き行ってまいります。

看護師養成も引き続き行なってまいります。おかげ様で今年の国家試験全員合格で7年連続100%合格を誇ります。

当院を希望される初期研修医も増えて、今年は総勢40名を超える初期研修医が都城を訪れます。今年度は国立病院機構九州医療センターからも初めて初期研修医が参ります。このような活動を通じて我々の仲間を増やし、地域に尽くす次世代の医療人育成を進めてまいります。

4. 今年度、国立病院機構施設の臨床研究部に昇格しました。従来の臨床研究の実績が認められての昇格です。地方でもリサーチマインドを持ちさえすれば、中央に負けない評価を必ず受けることができること、大変うれしく思っています。臨床治験、臨床研究の発信、そして地域での共同調査などもぜひ考えてみたいと思っています。

この世情と医療情勢の中で、地域のために我々が果たすべき役目は何か、全職員と前向きに元気に考え、行動したいと思っています。今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



退任のご挨拶

氏名：上通 一師

勤務部署：整形外科医長

異動にあたってのご挨拶：3年半、勤めさせていただきました。

通常の整形とは異なり、背景の重い患者様が多く大変でしたが、吉川先生、黒木先生、他科の先生方、2F病棟・手術室スタッフなどの助けを借りてなんとかやってきました。ありがとうございました。

氏名：川上 一誠

勤務部署：泌尿器科

異動にあたってのご挨拶：一年という短い期間ではありましたが、大変有意義な時間を過ごせた一年でした。今年学んだことをこれからに活かしていきたいと思います。また、他科の先生方、スタッフの皆様そして泌尿器科の上司や後輩など様々な方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

氏名：森永 剛司

勤務部署：外科

異動にあたってのご挨拶：外科で1年間勤務させていただいた森永 剛司と申します。

短い間でしたがお世話になりました。

皆様の更なるご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

氏名：藤内 律子

勤務部署：リハビリテーション科

異動にあたってのご挨拶：沖縄からこちらに赴任してまいりましたが、早いようで短い3年間でした。こちらでは、より、他職種との連携や地域医療に関わることができました。新しい赴任地では、この経験を生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

氏名：井上 祥子

勤務部署：外来師長

異動にあたってのご挨拶：私の看護人生の1ページに皆様に出会い、泣いたり、笑ったりと数多く支えて頂き都城医療センターでの勤務を終える事ができました事深く感謝いたします。

氏名：片山 太輔

勤務部署：小児科

異動にあたってのご挨拶：一年間という短い期間でしたが、在任中は大変お世話になりました。小児科としてはまだ若輩者ではございますので、皆様に多く迷惑おかけしたことと思います。ですが、たくさんの頼りになるスタッフや心優しい患者さまに育てていただき、小児科医として続けていくことができました。

様々なご協力をお願いした当院の各部署の方々、および、病診連携の各医療機関の方々に深謝いたします。

氏名：福元 渉

勤務部署：泌尿器科

異動にあたってのご挨拶：1年間ありがとうございました。皆様に支えられて充実した1年を過ごすことができました。

氏名：河野 猛嗣

勤務部署：産婦人科

異動にあたってのご挨拶：1年間大変お世話になりました。私の至らない点が多くご迷惑をおかけしましたが、指導医の先生方、助産師、看護師、その他のスタッフの方々のおかげで勤務を継続できました。有難うございました。

氏名：佐倉 志洋

勤務部署：手術室師長

異動にあたってのご挨拶：4年前、初めての転勤でとても不安が大きかったです。職員の皆様は優しく私に接してくれて、本当に嬉しかったです。4月からは福岡東医療センターへ転勤します。都城医療センターでの学びをしっかりと活かしていきたいと思います。



就任のご挨拶



氏名：佐藤 誠一

勤務部署：内科医長

着任にあたっての抱負：13年振りに帰ってまいりました。どうぞ宜しくお願ひいたします。



氏名：宮内 孝浩

勤務部署：循環器内科医長

着任にあたっての抱負：鹿児島大学の心臓血管・高血圧内科学より赴任致しました。若い頃にえびの、日向と赴任歴があり宮崎県は3度目です。何卒よろしくお願い致します。



氏名：岩佐 一真

勤務部署：整形外科

着任にあたっての抱負：患者さんの目線に立ち、十分なコミュニケーションを図りながら医療を提供できたらと思います。



氏名：入江 望美

勤務部署：小児科

着任にあたっての抱負：大学は宮崎県ですがしました。また戻ってきて働けるのを楽しみにしています。微力ながら、子供たち、その家族を笑顔にできるよう頑張ります。よろしくお願ひします！



氏名：上村 康介

勤務部署：泌尿器科

着任にあたっての抱負：新任してきた上村です。皆様の力になれるようにがんばりますのでよろしくお願ひします。



氏名：宮内 大知

勤務部署：泌尿器科

着任にあたっての抱負：4月1日付で都城医療センターに着任しました。宮崎県の地域医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。



氏名：光浦 智証

勤務部署：外科

着任にあたっての抱負：都城の医療に少しでも貢献できるように日々頑張っていきます。よろしくお願ひします。



氏名：松 敬介

勤務部署：産婦人科

着任にあたっての抱負：全力で頑張ります！よろしくお願ひします！



氏名：澤田 修

勤務部署：麻酔科

着任にあたっての抱負：北大出身の麻酔科3年目です。よろしくお願ひいたします。



氏名：桑幡 浩一

勤務部署：放射線技師長

着任にあたっての抱負：思いやりの心をもち安全、安心、良質な医療を目指し、少しでも地域医療に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。



氏名：仮上 透

勤務部署：理学療法士長

着任にあたっての抱負：働き甲斐のある職場にし、地域の方々や病院運営に少しでも貢献できるように頑張ります。



氏名：寺田 篤史

勤務部署：手術室師長

着任にあたっての抱負：福岡病院から異動になりました、手術室師長の寺田です。これまでの手術室経験を活かし少しでも病院に貢献していきたいと思っています。宜しくお願ひします。



氏名：柴田 奈歩

勤務部署：外来師長

着任にあたっての抱負：九州医療センターより昇任で参りました。まだまだご迷惑をおかけしますが、少しでも貢献できるよう頑張ります。



日本医療マネジメント学会、盛会裏に終えました！

前号でご案内いたしました、日本医療マネジメント学会第12回宮崎県支部学術集会を2019年2月2日(土)、都城市ウエルネス交流プラザで予定どおりに開催できました。

地方都市での開催であること、インフルエンザの流行冷めやらぬ中だったことで、参加者数が少ないかもしれませんと夜も眠れず心配していましたが、いざ開けてみると一般演題(60題)は過去最高演題数で1題の取り消しなく発表が行われ、一般有料参加者222名、スタッフ71名(当院職員・学生)で会場は賑わい、想定以上に盛会かつ熱気あふれる集会になりました。

メインテーマを「これから医療連携の在り方」と題して、特別講演2題(松田晋哉先生、山口育子様)、ランチョンセミナー2題(新屋俊明先生、Wマコト様)を企画し、様々な医療連携の在り方、コミュニケーションやパートナーシップについてご講演いただき、大変好評でした。学生や若い医療スタッフにとっても、発表の機会は学会の雰囲気に慣れる貴重な経験になったことでしょう。マインドさえあれば、地方でもやれるんだと大きな自信にもなりました。

本会の開催にあたり、協力していただいたわが都城医療センターの多くのスタッフと、ご支援をいただきました多くの関係各位に心より感謝御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

(病院長 冷牟田 浩司)



日本医療マネジメント学会 第12回宮崎県支部学術集会

ランチョンセミナーI

地域包括ケアシステム構築に必要な医科歯科連携

～都城医療センターでの事例を参考に～



平成11年米山武義らは口腔ケアを実施することで肺炎の発症を低下させる可能性があることを、平成17年大田洋二郎らは口腔ケアを実施することで頭頸部癌再建手術後の合併症（創部感染、術後肺炎等）を低下させる可能性があることを報告しました。これらの発表が契機となり平成24年4月周術期口腔機能管理（以下口腔管理）が新設され、がん患者のQOLの向上やがん治療成績への貢献が期待されています。

今回は都城医療センター（以下当院）で実施している医科歯科連携の実際を報告いたしました。特に、口腔管理は平成24年4月から平成30年3月までの6年間に2191名に実施しており、これまでの経緯、現状、問題点について詳細に報告することが、皆さま方がそれぞれの地域で医科歯科連携を中心とする多職種協働による地域包括ケアシステムを構築されることに寄与することを願っています。

以下、講演内容をお示しします。

当院での口腔管理計画策定件数は、平成24年度の149件、平成25年度は304件、平成26年度は357件、平成27年度は390件、平成28年度は454件、平成29年度は537件と増加傾向を示しました。紹介診療科は、外科664例、泌尿器科440例、呼吸器外科385例、内科261例、呼吸器内科127例、婦人科116例、耳鼻咽喉科115例などであり、その疾患内容は肺癌465例、大腸癌305例、前立腺癌303例、胃癌155例、悪性リンパ腫132例、口腔・咽頭癌113例、乳癌91例などでした。口腔管理開始時期は手術全体では治療開始0～7日前が81%、化学療法等全体では治療開始0～7日前が43%、治療開始1～7日後が28%でした。口腔管理実日数は手術全体では1日が26%、2日が30%、化学療法等全体では1日が23%、2日が21%でした。保存不可能な重度の歯周病は194例に認め、107例に抜歯を実施し、保存不可能な重度のう蝕は449例に認め、102例に抜歯を実施しました。当科で実施した口腔管理の内容は、全ての患者に実施した口腔清掃指導以外では、歯石除去444例、義歯調整または修理193例、抜歯173例、う蝕治療32例、義歯新製作30例、歯内治療12例、鋳造歯冠修復10例でした。当院で手術を行った1226例において12例（1.0%）に術後肺炎を認めました。これらの結果より、多くの症例ではがん治療開始直前に口腔管理が開始されているため、抜歯等の必要な口腔管理がすべて実施されていない現状が示唆されました。このため、口腔管理の意義、重要性について継続した患者、他職種への啓蒙ならびに地域歯科医療機関との連携が必要と考えられました。

（歯科口腔外科 新屋 俊明）

地域包括ケア病棟（通称：在宅サポート病棟）開設1年を迎えて

当院は平成29年7月に地域包括ケア病棟準備委員会を立ち上げ、同年12月から3ヶ月間の試行期間を経て、翌年平成30年3月に地域包括ケア病棟（通称：在宅サポート病棟）を40床で開設しました。在宅サポート病棟開設後の実績として平均病床稼働率76%、在宅復帰率92%、看護必要度21%で経過しています。ポストアキュート機能による一般病棟からの転棟患者の内訳は、診療科別では泌尿器科、整形外科、外科、呼吸器内科など手術後や化学療法後の患者が多くを占めています。6月からはサブアキュート入院として外来通院患者を対象に、がんの症状コントロールや歯科の消炎鎮痛目的の入院、糖尿病教育入院、介護負担軽減を目的としたレスパイト入院の患者を年間51件受け入れました。リハビリテーション体制を整備するため、理学療法士の増員と、在宅サポート病棟の看護師の運動器リハビリテーションセラピスト資格を取得することで、活動を強化しています。

開設後に準備委員会は、地域包括ケア病棟推進委員会に改め、推進委員を中心に毎日の病床管理ミーティング、毎週水曜日に病床管理会議を開催しています。病床管理ミーティングでは、ポストアキュート機能によるDPCの点数をもとに転棟患者選定、施設基準でもあるリハビリ単位数の確認（リハビリ対象患者の一日平均2単位以上の実施）などを行っています。病床管理会議ではリハビリ単位数獲得の現状と課題、転棟患者の決定や調整の現況報告と課題、転棟患者のDPC点数評価となる経営検証、在宅復帰率、看護必要度の現状を報告し共有しています。また、一般病棟から在宅サポート病棟への転棟チェックリストを作成し活用することで、病棟スタッフも在宅サポート病棟の特殊性を理解し、受け持ち患者への関わりに活かすことができています。

更に在宅サポート病棟の看護師は、転棟予定患者の「転棟前訪問」にも取り組んでいます。転棟前訪問時、転棟先での在宅復帰に向けた各職種の関わりを伝えることで、患者、家族からは転棟に対する疑問が解消されたとの声がきかれています。実際に転棟後の患者、家族から「在宅サポート病棟の静かな環境で療養でき満足である、各職種の在宅復帰に向けた丁寧な関わりで不安なく退院できる、家で過ごすこと自信心がついた」など好意的な反応があります。在宅をイメージした入院中の関わりでは、患者同士の語らいの場を設け、職員が企画するレクリエーションも患者に好評です。

今後、在宅サポート病棟では施設や在宅から在宅サポート病棟へ直接入院される患者を受け入れる、サブアキュート機能の導入を計画しています。サブアキュート機能を導入する事で、地域の医療機関や介護施設等との連携強化を図りたいと考えています。住み慣れた地域で誰もがその人らしい生活ができるよう、個別に応じた地域完結型の医療活動を推進し支援する、在宅サポート病棟の役割を發揮できるよう努めていきたいと思います。

（在宅サポート病棟推進委員会 鳥丸 章子）



第70回卒業証書授与式 2019年3月5日(火)



今日に至るまでの三年間は一瞬のようでもあり、とても長い時間だったようにも思います。三年前、看護師になるという夢に一步近づいたことに喜びを感じる一方で、これから始まる三年間に漠然とした大きな不安を抱きながらこの地を訪れたことを、今でも覚えています。

初めての病棟実習では、緊張と不安の中、看護師の働く姿に憧れを感じつつ、自分は本当に看護師にむいているのだろうかと自問することもありました。しかし、緊張しながらのぎこちない私たちの援助にも笑顔で接してくださる患者さんに励まされ、「患者さんに喜んでいただけるような援助ができるようになりたい」と決意を新たにすることことができました。

三年次の実習では、看護師の皆さんや先生方に、何度も指導や助言をいただきながら、教育理念に掲げる最善の看護について考えることができました。多くの患者さんと関わさせていただいたことで、私達は看護師の役割と責任の重さを感じるとともに、その素晴らしさにも気付くことができました。

私たちは今日、晴れて卒業の日を迎えることとなりましたが、この日を迎えることができたのは、いつも温かく見守ってくださった講師の皆様、病院職員・教職員の皆様、家族の存在があってこそであると思います。皆様からいただいたお言葉やこれまでの教え、三年間の学びと思い出を胸にそれぞれの目指す看護師像に向かい、努力を惜しまず精進してまいります。

(卒業生代表 郡司 みのり)

第73回入学式 2019年4月8日(月)

春の暖かな季節となった今日のよき日に、私たち73回生40名は、独立行政法人国立病院機構都城医療センター附属看護学校に入学を許可していただきました。

今、新しい仲間と共に学ぶことへの期待と不安でいっぱいです。

私は高校二年生の時、熱中症で倒れていた高齢者に出会ったことが看護師になりたいと思ったきっかけでした。その時、正確な知識のなかつた私は、保冷剤で冷やすことしかできませんでしたが、居合わせた方の的確な判断で無事に搬送することができました。その体験から、どんな時でも落ち着いて対応し、患者さんに心から安心して頂けるような看護師になりたいと思いました。

今年は平成最後の年です。5月からは令和と年号が変わり、私達は新たな時代への第一歩を踏み出すこととなります。時代の変化に対応できる看護師を目指したいと思います。そのためにも、この伝統ある学校で学べることに誇りを持ち、仲間と共に助け合い、励まし合って、一人の人間として成長していきます。また、私達を支えて下さる全ての方に感謝することを忘れずに、希望に満ちた新時代へ向けて精いっぱい努力することを誓います。

(新入生代表 安富 杏花)



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30～11:00

【2019年4月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 ※2	初診	血液	前田 宏一		佐藤 誠一	
		肝	加藤 順也			
	再 診		前田 宏一 佐藤 誠一	佐藤 誠一 加藤 順也	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 高智	前田 宏一 加藤 順也 佐藤 德也
循環器内科		一般	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩	宮内 孝浩
		特殊		心筋症外来 (午後)		
呼吸器内科	初診	今津 善史		今津 善史	小田 康晴	
	再 診		今津 善史			今津 善史
呼吸器外科	初 診		巻幡 聰		巻幡 聰	
	再 診	手術日	巻幡 聰 加藤 文章	手術日	巻幡 聰 加藤 文章	手術日
小児科	午前	1 診	中川 緑	柳邊秀一	明利聴瑠	入江望美
		1 診	柳邊秀一	中川 緑	入江望美	明利聴瑠
	午後	2 診	明利聴瑠	裴孝竣	裴孝竣	中川 緑
		3 診			シナジス外来 (8月～3月)	
外科	初 診	緒方健一		田中洋	手術日	緒方健一
	再 診	田中洋		光浦智証	後藤又朗	杉原栄孝
乳腺専門外来						(休診)
消化器病センター	初 診	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人	土肥容子
	再 診	土肥容子	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人
NST外来			駒田直人 (第二、四火曜日 14:00～16:00)			
整形外科	初 診		吉川教恵		吉川教恵	
	再 診	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	
	特殊検査	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	
リウマチ科 ^{※2}		吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵 (再診のみ)
泌尿器科	1 診	手術日	山崎丈嗣	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
	2 診		慶田喜文		慶田喜文	
皮膚科			中山文子 (9:30～13:00)		中山文子 (9:30～13:00)	中山文子 (9:30～13:00)
産婦人科	初 診	徳永修一	古田 賢	徳永修一		古田 賢
	再 診	後藤 夏美	徳永修一	古田 賢	古田 賢	徳永修一
耳鼻咽喉科	一般	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	手術日
	難聴外来	外津曲省吾 (14:00～17:00)	外津曲省吾	外津曲省吾	外津曲省吾	
放射線科	放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
	画像診断	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科	一般	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	田畠雅士 新屋俊明 西久保舞	手術日
	ペインクリニック					横山幸三 (終日・手術/外来不定期)
	障がい者歯科					森主宜延 (月2回)
がんサポート外来						岩崎竜馬
緩和ケア外来						林章敏 (第四金曜日)
特殊外来			マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00～15:00)

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。

※2 医療機関の方へ：血液内科、リウマチ科の初診については、事前に紹介予約申込書と共に、最新の血液データを送ってください。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/621-miyakonojo@mail.hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会